

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)(ユニット1)

事業所番号	2792300028		
法人名	社会福祉法人 央福祉会		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	大阪市阿倍野区阪南町2丁目16番7号		
自己評価作成日	令和3年3月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年4月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和2年度は新型コロナウイルス感染防止の為、外出やボランティアの受け入れを中止していましたが、平時は近隣の商店街やスーパー等、可能な限り希望に沿いながら外出支援を行い、季節に合わせた行事や取り組みも行っていきます。地域との交流も積極的に行っており、自治会や地活協との「お互い様」の関係づくりに取り組んでいます。ホーム内の取組みとしてできる限り自宅の雰囲気と近い環境で普通の暮らしができるよう、行き過ぎた介護にならないよう、アットホームな環境下で入居者個々に対し、チームケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は平成11年特別養護老人ホームを設立以来、ショートステイ、デイサービスセンター、小規模多機能ホーム等大阪市内に高齢者介護施設を7箇所立ち上げている。たとえ認知症になっても本人の人格を尊重してその人らしさを支える「尊厳の保持」を全事業所の基本方針として掲げ、常に利用者が【生活の主役】となるように、日々の生活の中での支援体制がある。事業所は併設の通所型デイサービス施設から日によっては2、3人の利用者の受け入れを行い、送迎のサービスもしている。閑静な住宅街の中で、近くには小学校、公園、神社が徒歩圏内にある。自治会や地域活動協議会とは地域の中で「お互い様」の関係づくりの取り組みを強めており、小学生で行われる防災訓練・お茶会への参加や福祉部会の中で管理者が認知症講座を開催し、講師役を務めて地域に貢献している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行に、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やさしい気配り、親思う慈しみの心」の法人基本理念を元にスタッフ全員でグループホーム理念を作り、玄関や事務所等に掲示している。また、会議などで定期的に確認し、実践に繋げている。	法人理念の地、事業所では開設時に独自理念「温かい気持ち、安心、笑顔、地域とのふれあいを大切にして住み慣れた街で普通に暮らし続けられる個別ケア」を掲げて、玄関やスタッフ事務所の中に提示している。職員は定例会議や申し送りの中で共有して日々の介護の中での振り返りとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や消防訓練などに町会長に参加してもらい、地域活動の情報をいただくとともに、入居者が地域活動に参加しやすい環境作りに協力いただいている。また、町会長会議への出席や地活協への参加により相互関係の構築に努めている。	自治会に加入して地域の情報を得て、コロナ禍以前は地域の防災訓練や福祉部会に参加して管理者が認知症講座の講師を務めたり、近隣の中学校から実習生の受け入れを行い、小学校で開催されるお茶会に参加するなどして交流を深め、地域とはお互い様の協力関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会長、地域福祉コーディネーター、地域包括と協働し、地域に向けての認知症講座を開催したり、相談窓口としての役割を発信している。また、個別の相談にも随時対応している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告の他、事故やひやりはっとの報告、地域とのかかわりに関する報告などを行い、その中で得た情報や助言をスタッフ内で共有し活かせるように取り組んでいる。	会議は基本偶数月の午後からとしているが出席者からの意向を聞いて柔軟に開催されている。自治会長、地域包括支援センター、地域福祉コーディネーター、社会福祉協議会職員、利用者、家族の参加のもとで開催され、各方面からの意見交換がなされ、情報収集がなされている。	会議の開催後にそのまま身体拘束等適正化委員会を開催してスピーチロックへの言葉の変換方法を共に学びあって知識の向上を深めているが、せつかくの議事録の家族への送付がなされていないので、送付によって会議の中身を知ってもらい今後家族会義への出席者が増えることに繋がることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活支援担当との連携や、今年度はコロナの影響で行われなかったが区役所で行われるタウンミーティング等に参加するよう取り組んでいる。運営推進会議には社協・包括に参加してもらい情報交換などを行っている。	事業内容の変更等や関係書類に係る協議は大阪市介護保険課と行い指導も受けている。生活保護関係は阿倍野区生活支援課とコンタクトを取り、ケースワーカーの訪問等も受けている。また、区内の地域活動協議会に参加しており、関係行事に参加したり関係情報の入手等日常的に協力関係を保っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議時に身体拘束廃止委員会を開催するとともに、指針を定め重要事項等にも方針を記載している。玄関は施錠していないがチャイムと手動で開けることができる内扉で危険防止に務めている。	身体拘束等の適正化のための指針を作成して年2回の研修を行い、運営推進会議後に適正化委員会を毎回行っている。玄関は内扉のみ施錠しているが利用者は手で開けられるようにしている。現在センサーマットや身体拘束の事例はなくスピーチロックについては言葉の変換の仕方(例えば〇〇分待ってください等)を具体的に管理者が指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な内部研修で学びの機会を確保している。機会があれば外部研修にも参加し、伝達研修として周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者で成年後見制度を利用している方がおり、後見人の定期訪問の際に情報交換をしたり交流を図っている。今後権利擁護に関する外部研修への参加も検討していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度説明を行い、十分に理解を得た上で必要に応じて署名・捺印いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置する他、ホームページでも問い合わせが可能なようにしている。運営推進会議にも可能な限り参加を促し、意見を伺うようにしている。	コロナ禍の中で家族会の開催はなく、面会は控えめをお願いしている。各居室担当者から年4回のお便りを発送して近況を報告しているが家族からはより詳しい近況報告の要望がある。	家族会はあるがコロナ禍の中で中止となっている。家族からは近況を知らせるお便りの要望が多く、居室担当者が中心になっての写真付きのより詳しい個別生活状況の報告が毎月あれば、安心材料となる事だと思われるため、対処される事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半期に一度人事考課表を用いて自己評価し、それらを元に個別に話をしたり、会議の場で意見交換を行っている。管理職会議では代表者や他部署の管理職と意見交換できる場として取り組んでいる。	法人からの年2回の人事考課表があり、それを基に管理者が個人面談を行い一人ひとりの個別な想いに寄り添っている。月1回開かれる定例会議ではケアの方法、清掃・調理方法等事務改善に向けた意見や提案があれば運営に反映している。その後、利用者のカンファレンスが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの実績、勤務状況を見ながら、年一回の昇給、年二回の賞与を行っている。また、資格取得に向けての勉強会や、会議の場で意見交換し、働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	シンジンスタッフには定期的な面談やOJTによる指導を行う。隔月で内部研修を行い、学びの機会を設けている。外部研修に参加したスタッフは伝達研修にて他スタッフへ周知するように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍では他事業所との交流はできるだけ控えているが、平時は外部研修やグループホーム委員会、社会福祉施設連絡会など、他事業所との交流の場があり、連携している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに基づき、不安や困りごと、予防などを随時聞き取りしながら関係作りに努めている。入居後もスタッフ同士で情報共有し安心して過ごせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接や契約時の家族への聞き取りに基づき、不安や困りごと、要望等を相談しやすい環境、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族がどんな支援を必要としているのか、聞き取りなどにより把握し、必要に応じてサービスの変更が必要であれば相談の上、変更できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あくまで共同生活の場である認識を持ち、家事や活動を一緒に出来る環境や雰囲気を作り、関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に施設側と家族の協働で支えていく旨の説明をしている。必要に応じて医療機関への受診に同行いただいたり行事に参加いただくこともある。また負担の無い範囲での定期的な面会を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族への聞き取りをし、馴染みの場所や関係の把握に努め、コロナ禍では控えていただいているが、家族だけでなく友人や知人などの面会も推奨し関係が途切れない様に努めている。	入居前の生活情報は自宅に訪問して馴染みの人・場所の情報を出来る限り集め、今までの生活環境に近づけるように工夫がなされている。近隣の商店街や神社の訪問、昔からの友人には電話で話してもらったりしている。携帯電話所持者が3名いる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流時には随時必世に応じてスタッフが介入するなど、交流しやすい環境作りに努め、交流が難しい方へはスタッフが適宜関りを持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の支援について、次の受け入れ先を探す支援や必要に応じて本人や家族と連携を取り、相談などがあれば受け入れている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントに基づき、可能な限り希望や意向に沿った暮らし作りを目指している。また、日々知り得た情報は情報収集シートやケース記録に記録し、関わり方のヒントにしている。	契約時に家族や以前のケアマネジャーから利用者の好み、趣味、特技を聞き取り、フェイスシートに記録している。日々の生活の中でくさや行動、動きなどから知り得た情報は情報収集シートに記録して職員が共有し、個別介護計画に追加しながら本人本位の検討材料としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等について本人、家族、関係者から情報を収集し、把握に努めている。また、必要に応じて利用していたサービスの担当者や連携を取り情報交換をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察に加え、入居者個別担当やケアマネジャーが中心となり、カンファレンスを開催し情報の共有を図っている。またその記録も周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者個別担当やケアマネジャーが中心となり、定期的にカンファレンスを開催し、本人の思いや家族の思い、意向の確認・把握し介護計画の作成・評価を行っている。	利用者の身体状況の変化時以外は毎月の定例会議で利用者の状態を報告し共有している。サービス担当者会議では、事前に家族からの意見を聞き、計画作成担当者、居室担当者、管理者が中心となって一人ひとりの介護計画の話し合いがもたれ、短期は6ヶ月、長期は1年毎に介護計画の変更がなされ、家族には電話で説明を行い同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づきなどケア記録に記入し、職員間で共有しながら申し送り時やカンファレンスで記録を元に検討し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り個別のニーズに対応できるように職員の配置や連携を図っている。また、都度相談、検討し、できるだけ思いに応えられる体制作りを目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の種類を見極め、本人が無理なく参加しやすい、有する能力を活かせる活動への参加を検討。また地域側からも協力していただけるように協力体制作りを目指している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居前の面接時に意向確認し、馴染みのかかりつけ医が居れば継続・連携を取り、必要に応じて家族の協力もいただきながら定期的受診や随時の受診など適切な医療を受けられるよう支援している。	従来のかかりつけ医を希望している利用者は内科3名、眼科1名で必要な医療が受けられるように情報提供や連携を取りながら同行支援も行っている。その他は協力医療機関で内科は月1回、歯科は週1回、訪問医療を受けている。看護師は週1回訪問し、健康管理、相談の対応をしている。24時間オンコールの体制が敷かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と随時連携を取り、情報交換をしながら個別に合わせた適切な受診や看護を受けることができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した際は医師、担当看護師、相談員からの情報収集や意見交換をしながら可能な限り早期に退院できるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の対応指針を説明、同意いただいている。また、当該入居者がかかりつけ医より終末期の診断があれば、医師・看護師と連携をとりながら家族へ個別に説明するようにとりくんでいる。	重度化や終末期の対応についての指針は契約時に説明し同意を得ている。これまで看取りケアの経験はなかったが、段階的にその都度利用者、家族と面談し話し合っ、医師、看護師と連携を取りながら昨年は3名の看取りを行った。職員も必要時に備えて職員研修を行っている。今後は家族の希望を汲み取り、看取り体制を整えていきたいと検討している。	終末期の対応については、早期から話し合い家族、医療関係者と連携を図りながら支援していく体制作りが必要である。管理者は今後、終末期への体制作りが優先課題であると認識して、安心して納得した最期を迎えられる支援体制づくりに取り組みたいという姿勢に期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応に関しては、マニュアルの把握や内部研修、訪問看護師の指導などを参考に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町会長はじめ連合町会と平時から連携、協力体制作りに取り組んでいる。消防・避難訓練時にも町会長に立ち合いしてもらい有事に備えている。	年2回(4月、10月)に消防署立ち会いの下、昼夜を想定して避難、救出その他の訓練を実地している。訓練に地域自治会長、連合会長が参加して、有事に備え、平時から地域との協力体制を築いている。管理者は地域の避難訓練に参加し、事業所は有事の際、地域福祉避難所に指定されている。非常時に備えて3日分の備蓄(水、コンロ、食料品等)を倉庫に準備している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念に沿い、個人を尊重し言葉遣いにも配慮した声掛けを心がけている。また、会議や勉強会などで都度啓発や確認をしている。	人生の先輩に対しての尊厳を重視した法人理念に沿って、職員は日頃から会議や勉強会、研修会を通じて意識の向上に努めている。言葉使い、声掛けなどの対応には注意して呼称は「〇〇さん」「…です。…ます。」口調での対応に心がけている。不適切な対応や声掛けなどに気付いた時はリーダーや管理者が注意し改善に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で想いを導き出し、その想いに沿えるように対応し選択や決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり何ができるか、何がしたいか思いを伝えていただき、一緒に考える環境を作り実現できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の服を聞いたり、寒さ暑さに合った服を伝え、一緒に考えるようにしている。定期的にホーム内でカットやカラー、パーマなどができる環境を整え気分転換を図っている。外出時には化粧などの援助も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のできることを把握し、調理や片付けができる方に関しては極力一緒に行うようにしている。時には行事食や食事レクリエーションなどで楽しみをもってもらおうよう配慮している。	毎日の食材、献立は食材業者から届けられて、料理担当者(1名)が作っている。利用者は出来る範囲で盛りつけ、テーブル拭き等、職員の力を借りながら一緒に行っている。検食を兼ねて職員1名は一緒に食事をして、他は見守り食事介助に徹している。コロナ禍前は行事、イベントの時は家族を交えてお寿司、お好み焼き等の食事を楽しむ機会があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調の状況を把握し、個々に合わせた水分・食事を摂っていただいております。キザミやトロミなど提供方法にも配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、週一回の歯科往診を受けていただき、できない所はスタッフがお手伝いをしています。就寝前には義歯を預かり、洗浄や消毒を行う。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴え、ご自身で行けない方はサインを察知し声掛けや誘導をしています。極カトイレでの排泄を促し、安易にオムツを使用しないように取り組んでいます。	排泄チェック表で利用者の排泄リズムは把握している。現在、全員がトイレ誘導が必要で、誘導時は尊厳を無視した対応にならないように、耳元で小さな声掛けに心がけている。日中はリハビリパンツ使用がほとんどであるが、夜間パッドを追加している利用者もいる。夜間の見守りは2, 3時間おきに睡眠重視で見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や訪問看護師と相談しながら、便通に良い食材を提供したり水分の強化に努めている。状況に応じてトイレで腹部のマッサージを行い排便を促すようにもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日々の入浴状況の把握に努め、時間などは決まっている訳ではなく、対象利用者の様子やタイミングを見ながら声掛けしている。拒否のある方には気持ちを傾聴し、足浴や清拭などの対応をしている。	入浴は週2~3回行われており、3時のおやつ時間までに入浴ができる。毎回お湯は入れ替えて清潔に配慮している。入浴剤を使用し、季節のゆず湯などを入れるなどして入浴の変化を楽しんでいる。入浴拒否利用者が多く、時間帯の変更、スタッフの交代などに配慮し、足浴、シャワー浴に切り替えるなど工夫もしながら、個々に沿った入浴支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムや他利用者とのタイミングなどを見ながら帰宅誘導や声掛けし臥床を促す。また中々寝付けない方はリラックスできるように声掛けしたり温かい飲み物を提供するなど工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作り、一人一人がいつ・どういった薬を服用しているのか把握している。間違いなく服用できるようトリプルチェックを行っている。症状の変化も観察し、必要時は訪問看護師、医師、薬剤師に相談・報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた役割を家事や活動の場で持っていたき、やりがいを持てるように支援している。天気の良い日は外気浴も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防の為、日常的な買い物などはできていない。外気浴や近隣で散歩ができるよう努めている。	コロナ禍自粛前は近隣の公園、寺、神社、商店街やスーパー等への外出や春の花見、大きな公園などへ遠出をする機会を設けていた。家族の協力で買い物、外食などで外出していたが、昨年度から外出支援や遠出はやめて近くのスーパーや商店街までの外出支援を行い、玄関前の花の水やりやベンチで外気浴をして楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームでお預かりしているが、ご本人の希望に沿い、ご家族にも相談・了承いただき一部金銭を自身で管理していただいたりもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話できるようにしている。手紙や年賀状など書く際は、適宜支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じて遮光したり、室温・湿度の調整、換気を行い快適に過ごせるよう努めている。季節感を感じることができるようにフロアの飾り付けも行っている。	館内は採光や広さ、温度、湿度に配慮された設計で明るく清潔感があり、ゆったりしている。台所兼リビングには数人が座り談笑ができるソファが設置している。加湿器兼空気洗浄機が2,3台置かれてコロナ対策に力を入れている。壁には利用者、職員の季節の協働作品(5月のこいのぼり等)、手作りカレンダーが飾られて快適に過ごせるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった場所だけでなく、居室や和室、共用スペース以外にも過ごせる環境作りに配慮し、親しみやすい座席配置等も工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者・ご家族と相談し、居室内に思い入れのある物や家具を置き、安心して過ごしていただけるよう努めている。	全居室にベッド、エアコン、クローゼット、防災カーテンが設置されている。自宅から馴染みのテーブル、椅子や家族写真、小タンスなどが持ち込まれて、それぞれ自分の居室として賽げるように工夫されている。居室担当者と一緒に部屋の整理整頓や掃除を週2,3回は行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の思い、ご家族の思いを尊重・理解し、可能な限り自己にて意思決定や安全に行動ができるように努めている。		